

尿中肺炎球菌莢膜抗原		3905000		
		担当部署		
尿肺炎球菌		微生物		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める		
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→		
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		<p>1) 尿中の肺炎球菌莢膜抗原は、通常では肺炎症状の 3 日目以降から検出感度に達するとされているが、症例によって異なる。また、尿中に数日から数週間に渡って排出される場合があるため、測定結果の解釈にあたっては、既往歴や臨床症状を十分に考慮すること。また、治癒後も尿中に排出される場合もあるため、治療効果の判定には使用しないこと。</p> <p>2) 本製品はウサギ抗体を原料に使用しているため、ウサギ抗血清による治療を受けている症例、あるいは異好抗体が尿中に排泄されている症例等において偽陽性となる可能性があるため注意すること。</p> <p>3) 肺炎球菌との共通抗原をもつ菌種 (S. mitis, S.pseudopneumoniae) が検体中に存在する場合、偽陽性となる可能性がある。ただし、S. mitis は心内膜炎の起原因菌であるため、本製品が検査対象とする肺炎患者から検出される可能性は非常に低いものと考えられる。</p>		
検査受付時間		緊急対応 (24 時間)		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		該当なし		
検体採取の特別なタイミング		特になし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 新鮮尿	3 5滅菌管	なし		
2				
3				
4				

5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温 採取後直ちに提出			
検体受入不可基準		1) 検査ラベルがない検体 2) 試料（検体）には尿を用いる。尿以外の検体（血清、喀痰、咽頭ぬぐい液等）は使用できない。 3) 膿や血液等で著しく混濁している尿は使用しないこと。			
保管検体の保存期間		2 週間（再検査・追加検査は要連絡）			
<b>検査結果・報告</b>					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中			
生物学的基準範囲		陰性（-）			
臨床判断値		該当なし			
基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		肺炎球菌は市中肺炎の原因菌として最も一般的な細菌であり、最も高い頻度で幼児と高齢者に感染を起こす。 肺炎球菌性肺炎は、咳、大量の痰および発熱が特徴的である。 「下気道感染症検査ガイドライン 第 1 版 2008 年」			